

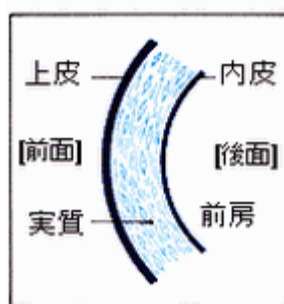
⑥ 眼感染症 (ア)角膜感染症

①「角膜」ってなに？

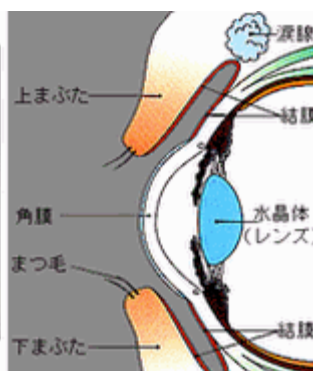
角膜は、いわゆる“くろめ”にあたる部分で、主としてコラーゲンから成る厚さ約0.5mmの透明な組織です。カメラで言えばレンズに相当する部分で、外から入ってくる光を屈折させて網膜に像が結ばれるのを助けています。

角膜は大きく3つの構造、外側から順に「上皮」、「実質」、「内皮」から出来ています。角膜の表面にある上皮は涙におおわれて、細胞分裂を繰り返しながら速い周期で、入れかわっており、外界の刺激や病原体の侵入に対する一種のバリアを形成しています。実質組織は角膜の骨組みで、主としてコラーゲンとムコ多糖類より出来ています。角膜の裏側にある内皮は一層の細胞シートで、ポンプ機能により角膜内の水分をいつも適量に調節しており、角膜を透明に保っています。

【角膜の構造】



【目の構造】



② 角膜感染症ってどんな症状が出るの？

角膜感染症が起こると様々な症状が出ます。目の痛み、目のゴロゴロ感、白目が赤くなる、涙がポロポロ出る、まぶたのピクつきや腫れなどが生じます。角膜が白くにごって視力が低下することも少なからずあります。



③ 角膜感染症はなぜ起こるの？

角膜感染症とは、細菌やカビ（真菌）、ウイルスなどの病原体が角膜に感染し、炎症を起こしている状態です。前にもふれましたが、角膜の表面（上皮）は比較的丈夫な構造をしており、さらに涙によって守られています。したがって、細菌に触れただけで、角膜感染症になることは通常はありませんが、何らかの原因で、異物が上皮を越えて角膜実質の中に入り込むと角膜感染症が生じます。ゴミ、砂、植物の枝葉などによる角膜外傷、コンタクトレンズ装用による角膜表面のキズ、ドライアイ（涙の分泌量の減少）、ステロイド剤の長期点眼などが危険な因子です。流行性角結膜炎、いわゆる“はやり目”の時に、油断すると細菌性の角膜炎を起こすことがあります。

④ 角膜感染症の治療法

細菌の種類により、抗菌剤や抗真菌剤、抗ウイルス剤などを投与します。軽いものであれば点眼により比較的短期間のうちに治りますが、点滴など全身的な治療が必要となることも少なからずあります。目のゴロゴロ感や痛みとともにまぶしさを感じる時、急に視力が低下した時など、急速に症状が進行することがありますので、すぐに眼科に行ってみてもらいましょう。特に目にホコリやゴミなどが入った覚えがある時には注意しましょう。

⑤ 角膜感染症の種類と症状

・細菌による角膜感染症

細菌によって起こる角膜炎です。ゴミや砂などの異物が目に入ったり、コンタクトレンズ装用で角膜にキズがついたり、ステロイド薬の使用などにより起こることがあります。症状は、見えにくくなったり（視力障害）、目が痛くなった

り、充血したりすることが多い。放置すると失明の危険がありますので、一刻も早い治療が必要となります。抗菌剤（セフェム系、アミノ配糖体）の頻回点眼と、重症例では全身的な投与が行われます。

・真菌による角膜感染症

カビ（真菌）によって起こる角膜炎です。植物などによる外傷（木の枝で目を突くなど）、ソフトコンタクトレンズの連続装用、ステロイド剤の長期点眼、免疫抑制状態などにより起こることがあります。細菌性のものに比較して、症状が出るまで日数がかかるのが特徴です。治療には抗真菌剤（ナタマイシン、フルコナゾール、ミコナゾール）の投与が必要です。

・角膜ヘルペス

ヘルペスウイルスは多くは乳幼児の頃に初感染を起こし、身体の中の神経組織にひそむようになります。一旦、神経組織（三叉神経節）にひそんでいたウイルスは、発熱、紫外線被曝、ストレス、外傷、寒冷、疲労などをきっかけにして再び活動を開始し、角膜へ移動して角膜炎を起こします（再発）。これが角膜ヘルペスです。抗ウイルス剤（アシクロビル）を点眼すると1週間以内で治りますが、その後も再発を繰り返す例が少なからずあります。

・アカントアメーバ角膜炎

池や沼などの淡水に広く分布するアメーバという目にみえない微生物によって起こる角膜炎です。日本では初めての症例が1988年に報告され、近年、アメーバによる角膜感染がコンタクトレンズの装用者に激増し注目されています。日常の手入れに問題があり、アメーバにより汚染されたコンタクトレンズを装用することにより起こります。夜も眠れないほどの激しい目の痛みが特徴です。抗真菌剤（ナタマイシン、フルコナゾール、ミコナゾール）による治療を行います。

⑥ 感染予防対策5箇条！

早期発見、早期治療が大切です。

・ドライアイで涙の分泌が低下している人は、感染が起こりやすいことを理解しておきましょう。「ソフトサンティア」など涙の成分と同じ点眼薬を点眼するのも効果があります。その場合は防腐剤の入っていないものを選びましょう。

・目のゴロゴロ感や痛み、まぶしさなどを感じる時は、はやめに眼科へ行きましょう。特に目にゴミが入った覚えのある時は注意しましょう。

- ・コンタクトレンズは適切な取り扱いをし、忘れずに定期検診を受けましょう。
- ・目にゴミが入ったときは、こすらずに流水で洗い流すか、しばらく目を閉じてゴミが涙で流れ出るのを待ちましょう。
- ・目薬をさす時、目薬の先にまつ毛や手を触れないように気をつけましょう。

資料参照『参天製薬 目の健康 角膜感染症、『眼科診療学 ABC』角膜感染症』を引用させて頂きました。